

うとしているのはどなたですか？と聞きたいと思
います。

私たちは、使用済核燃料の行き先がはっきりしな
い限り、原発の運転を認めないというのが福井県知
事の通すべき「筋」だと考えます。

使用済核燃料については岩永氏は「原発は引き受
けているが、使用済核燃料を県内に長く留めておく
ことを認めているわけではない。使用済核燃料が県
内にあるということは将来にわたってもいろいろな
問題がある」とうっかり認めました。

そこで、「どういう問題か」と聞いただけだと、「県外
に搬出して再処理するのが基本であり、問題がある
わけではない。原発では使用済核燃料を一時的に貯
蔵しておくが、中間貯蔵するのなら別のところでや
るべきだ」とごまかしました。

◆新規制基準には大きな欠陥がある

7月に策定された原子力新規制基準は「世界に誇
るべき最高級の規制基準」などと盛んに宣伝される
ため、二度と事故が起きないような厳しい安全基
準ができたと思われがちです。しかし、
若狭ネットが、「耐震設計審査指針」について以前
から指摘批判してきたことですが、新規制基準でも、
地震と原発に関わる二つの根本的な問題は無視され
たままです。

・「多重損傷」事故は、新規制基準でも想定されな
いまま

二つは、地震の衝撃により、複数の重要機器や配管



MOX燃料輸送船と高浜原発

が同時に壊れる「多重損傷」事故
が新規制基準でも想定されてい
ないという問題です。これまでの
「安全基準」と同じように、故障
は単一で、他の機器はすべて健全
であるという前提でしか事故対
応を想定していないのです。とい
うより、「多重損傷」を想定した
ら、原発は動かさないといい
関係者たちの本音なのでしょう。

1979年に起きた米国のスリーマイル島原発事
故は、それ自体何でもない二次系の給水ポンプの停
止からはじまり、圧力逃し弁の故障→水位計の欠陥
→誤判断と塔倒壊的にトラブルが続き炉心溶融
にまで至った事故ですが、原発が地震に襲われて複
数の重要機器や配管が壊れれば、瞬時に過酷事故に
発展する可能性が高いのです。

新規制基準も一つの欠陥は、原発を襲う「最大規
模の地震の揺れ」があいかわらず想定されていないこ
とです。

・一般防災計画では想定していない
「最大クラスの地震」を想定していない

総理大臣を長とする中央防災会議は、「今後、地震
・津波の想定を行うにあたっては、『必要となる施設整
備が現実的に困難となることを見込まれる場合であ
っても、ためらうことなく』あらゆる可能性を考慮し
た最大クラスの巨大な地震・津波を検討すべき」と
しています。それに基づき自治体の一般防災計画では
最大クラスの津波・地震が想定されているのです。

原発の新規制基準では、津波については確かに最

大クラスの津波を想定することになりましたが、し
かし、地震動については、極めてまれではあるが発生
する可能性があり、施設に大きな影響を与えるおそ
れがある地震動(基準地震動)しか想定していません
。これは、原発の近くで起こりうる最大クラスの巨
大地震のことではありません。

この「想定する基準地震動」の地震の揺れの計算
も、値切りされ、過小評価されているというところを、
若狭ネットの長澤啓行さん(大阪府立大学名誉教授
は指摘されています。

◎愛媛県での長澤さんの講演会
Ustream 録画 #IWJ_EHIME1
<http://t.co/T177rhGkw>



長澤さんの話しはかなり専門的で難しいのです
が、次の新基準の骨子案の文面を読めば、規制委員
会も、この「基準地震動」が最大クラスの地震ではな
いと考えることがわかります。

・原発震災による大事故の発生「残余のリスク」を想
定している

地震学的見地からは、基準地震動を上回る強さの
地震動が生起する可能性は否定できない。そのため
「残余のリスク」(策定された基準地震動を上回る影
響が施設に及ぶことにより、施設に重大な損傷事象
が発生する、施設から大量の放射性物質が放散され
る事象が発生する、あるいはそれらの結果として周
辺公衆に対して放射線被ばくによる災害を及ぼすこ
とのリスク)が存在する。

したがって、基準地震動を上回る事象が生起する

可能性に対して適切な考慮を払い、この「残余のリスク」の存在を十分認識しつつ、それを合理的に実行可能な限り小さくするための努力が払われるべき。

『残余のリスク』とは、どんな安全策を講じても、無くすことのできない最後に残るリスクです。

つまり、巨大地震に襲われたら、「実行可能な限り『残余のリスク』を小さくするための努力を払う」しか手がないということです。原発が大地震に襲われ多重損傷でフクシマを上回る大惨事になった時に、「なぜ想定していなかったのか」という批判を受けたときには、「残余のリスク」は彼らの逃げ道になります。

『残余のリスク』＝巨大地震の可能性がある日本では原発など動かしてはならないのです。こんな「新基準」を、なぜ世界最高レベルと呼べるのでしょうか。



◆「元東京電力社員が語る 福島原発と現地の実態」吉川彰浩講演まとめ

2013年7月14日・福井市西別院



【吉川彰浩氏プロフィール】

福島第一原子力発電所で10年、福島第二原子力発電所で4年、保全部、環境施設に従事。

3・11時は、福島第二原子力発電所にて原子炉冷却水を確保する作業を担当し、事故以降は同原子力発電所の廃棄物処理建屋の復旧に従事。

2012年6月に退職し、現地作業員と現地社員の地位回復や実情を伝えるため講演活動を行っている。発電所勤務時代は警戒区域である双葉町、

浪江町に住んでいた為、避難者の現状を伝える活動も行っている。33歳。

◎Facebook Yoshikawa Akhiro

◎ブログ:

<http://1031ryota.blog.fc2.com/>

※気軽に「ご連絡ください」

※採録内容を本人に確認して頂いています。

※私たちと考え方は違いますが、貴重な体験を基にした内容なので、極力多く紹介します。守秘義務などがあるため、動画撮影などはしません。富山でも翌日開催し、70名の参加者があったとのことです。

※写真は東京電力HPより(吉川さん及び話とは無関係)

◎福島原発の現在

・福島でも原発関連ニュースは少なくなり、隣の茨城では目にしなくなっている。原発の問題がニュースにならなくなっている。

・福島第一原発(フクイチ)作業員たちは、(過酷な作業にもかかわらず)差別されたり、世間から注目もされないで辞めていく。↓変わりに入ってくる作業員は原発未経験者が多く作業員の質(原発知識や技術力といった面で)が悪くなってきている(ネットワークス、ヒアスとは法度なのにしてている等)。↓(吉川さんの印象では)廃炉には100年くらいかかるのではないかと、あるいは不可能ではないか(30年というのは、希望的なもの)。これは、僅か2年ほどで作業員などの質が悪くなっていることから将来的には廃炉を支えていく人間がいなくなる事を懸念して(現在、数は足りている)。

・現場では、作業員のレベルが下がっているが、「慣れなくてもうしかない」というスタンスで接するようになってきている(いてくれるだけありがたいと現地の社員



は思っている)。

◎東京電力について

・決められたことしかやらない。逆に言えば決められた事は何なんでもやる。
・秘匿性(透明性がない)。
・原子力産業の悪い所。核防護上の問題で開示できないことが多い。

・発電所の管理能力は世界有数だが、発電所の構成する設備の技術については古いプラントなので世界一かという疑問ではある。

◎事故当日とその後

・3・11の地震は福島第二原発(フクニ)にいて揺れたが、中越沖地震(2007年7月)での柏崎刈羽のトラブル(ダクトのずれや変圧器の火災等)を踏まえ、耐震工事されていたため、大丈夫だと思っていた(現に福島第二では地震が原因となる配管の破断等は起きていない)。

【福島第一原発が地震で冷却系配管が破断したという点について】

・地震後、40分ほどは、プラントパラメータが活きていた。その時放射能高高(こうこう)の警報は鳴らなかつたと現地当直員に聞いている。地震で配管破断などはなかつたと思われる。プラント内には、測定器が非常にたくさん常設されている、それらに付随する数万本ある小口径配管(小指くらいの径)のどこかが破断していたかも知れない。(いずれも過度事象に直接繋がるものではない)致命的なダメージを与



えたのは津波だと思ふ。

・福島第一原発1号機の1C(イソコン/復水器)を止めたのは、急激に冷やすと原子炉に亀裂が入るためであり、正しい対応。

・フクイチで亡くなった作業員2名は、地震後、制止されるのを振り切つてプラントを点検に行き、津波に遭つて命を落としたと聞いている。現場を守ろうという強い意識が招いた事故。

・伝えたいのは、働いていた人達の多くが現地の人間である為、被災者であるということ。吉川さん自身、復旧にあたっていたため、妻と再会したのは5月になつてから↓今まで5分の距離に住んでいた妻の両親が、千葉、仙台、愛媛に避難している。家族がバラバラになつたのは自分達だけではなく、当たり前になつている。

・震災から1年は、(現場では)まともな食料もなかった。会社で支給されるのはおにぎりといった簡易的な物で、社員と作業員の多くは自分で買い出ししていた。フクニでは、風呂は4日に1回という状態が3ヶ月続いた。

◎被災者との実態

・震災後1カ月ほどは東電社員の子供たちが避難所でいじめられる様子が散見された。親御さんたちが、東電社員の子供をいじめたりしたが何も言えない。↓東電社員が辞める理由は、社会からのいじめ。(矛盾)先が社員の家族に向いている)↓差別

【伝えたいこと】

・現地の人たちのことを思わないと、大変なことになる。社員は社会からのバッシングにより辞めてしまふ。作業員の多くは避難生活と原発労働との「二重生活のストレス」から辞めてしまふ。作業員の処遇は事故の収束と関係ない問題ではない。技術者離れと、今後を支えていく人材が育たない。

結果として、第二の原発事故に繋がる可能性がある。決して福島県だけの問題ではない。それを伝えるのが主旨。

・補償金をもらっているんだから、よそに新たに家を建てれば良いと言われるが、事故後5年までの補償は全く将来の事を考えるとなかなか使えるものではない。また、いつ帰れるか分からない状態では、避難先を終の住処にすることはできない。

被災者が人口の10%を占めるいわき市では、被災者と地元住民とのあいだで軋轢が発生している。交通渋滞や賃貸が被災者で埋まり、いわき市の学生の部屋がない、いわき市住民が新しく家を借りるといったことが出来ない。慢性的な住宅不足により地価がバブル期以上に高騰している。軋轢を示す例としてスプレーで落書きなどされる(被災者は出ていけといったもの)。一部の生活態度などよくない被災者の為と言われのない扱いを受けるケースもある。

◎避難に関して

・実際に各市町と連携して避難することはできません。地震によるインフラの崩壊により蜘蛛の子を散らすような逃げ方しかできない↓対策をとつていまずといつても、非常に厳しいと思う。ガソリンスタンドも閉まるし、道も断線してしまふ。元々車を運転できない高齢者等は厳しい。また、避難方法が正しく地震が起きたときに住民に届くかは不安。当日逃げ

遅れたケースがある。

◎東京電力からの補償

・1人10万円/月+給与補償(働いていた人の場合)
世帯人数が多い場合、ひと月の100万以上の補償となるケースは十分だと思ふ。

※心配しなければならぬのは、1人や2人の世帯、特に母子家庭や高齢者世帯。

※故郷を奪われ、家を奪われた上での保障としては、見合わない

◎国と東京電力の関係

・通産省令第62号に基づき、東京電力は原発を維持している。省令を具体的に解釈した「解釈集(社外秘)」に書かれたことしか、電力会社はしないし、国も決められたことをやっていると答える。年中、経産省とやり取りしながら、解釈集の内容を追加、改訂している。

・東京電力と経産省が取り決めたことに、他の8電力も倣うことが多い。個別ケースがあるのでそれは各電力会社と経産省が行っている。

◎被ばくについて

・吉川さん、東京電力を辞める際に健康診断したがA判定(健康そのもの)だった。
・友人で累積800ミリ浴びているがピンピンしている。そういうケースもある、ということ。↓故吉田所長を「東電に殺された」、などと書きちゃいけない。慎

重になるべき。「分らない」が正しいと思う。
・フクニで、妊婦が働いていた(善悪は別、問えるものではない)。管理された場所ではそういった人もいるということ。ネットを通じた情報で放射線に詳しい人ほどヒステリーになる傾向があると思う。少しは、環境省も信じた方がいい(客観的データとして挙げているものがある)。
放射線の影響は、多くの客観的データをもとに正しく理解する必要がある。必要以上に恐れヒステリーになることの方が危うく感じる。

◎津波対策 純水系 シビアアクセントマニユアル

・原子炉に塩分は大敵。冷却水は川から取り、純水にしてタンクに貯蔵して使用している。↓フクニでは、津波で川から敷地に水を引く設備が流れた。↓吉川さんも復旧に当り、冷却水の確保に努めた結果として過酷事故を免れた。

・川から敷地に水を引く設備は、立地している町の持ちもの。津波対策をとるには町と協議しなければならぬ。そういった対策をしないのであれば、当然再稼働という選択はできない。つまり発電所敷地内だけ対策すればいいという問題ではない。

・純水系は放射能を含まないので、通産省令第62号の規制外(耐震設計が適用されない)。電力会社に任せられている。3・11後、毎年予算が数千万円だったが、福島第二原発を例にするとなくなった。通産省令第62号を強化する必要がある。

・核防護規則に縛られる部分のマニユアルは社員でも見られる人は制限される→専門グループしか見られない。規制委員会は見られる。

・シビアアクセントマニユアルについて。そういった物が制定はされているが原発事故時に機能しなかった。
・各過度事象に対応したマニユアルはある。しかし、津

波のマニユアルはなかった。

◎廃棄物関連

・放射性廃棄物は使用済み燃料だけではない。例として、冷却水の汚れを濾過する化学フィルター(イオン樹脂)がある。これを洗浄する際に発生する廃液は、ドロドロした樹脂状の汚染物である。東京電力の場合、樹脂タンクと呼ばれるものに貯めている。非常に高線量(使用済み燃料よりも高い)。敷地内に置いてある。一つを例として取り上げるが、一般の方や原子力に興味のある方ですら知っていないものがある。原子力の問題について考える場合、多くの事を知らなくていけない。

◎免震事務棟(福島第二の場合)
・パソコン200台くらいあり、データベースにすべて記録を入力していた。免震事務棟だけでは間に合わず、地震により壊れた事務所でも作業していた。↓関西電力が、大飯原発の免震事務棟建設が間に合わず、緊急時対策室で対応するといっているが、津波で被災した原子力の復旧を行った経験者からすると非常に心もとないと思う。

◎立地自治体との関係

・保安規定でどんな小さなトラブルも報告するようになさるべき。県と町に対して。保安規定は県、町との取り決めなので、それらを震災前より厳しく介入することで、立地地域としての責任を持つべき。
・フクイチだと、年間3万件の不適合のトラブルがあった。それには書類の不備やちよつとしたねじの緩み、蛍光灯の破損等も含む。しかしそれらを全てオープンにし適正に管理することが重要だと思ふ。



◆アオツサパネル展示報告

中嶋多恵子



7月3日(水)〜5日(金)アオツサ1階で、「福井の未来は? ……いのちと自然とエネルギー」というテーマでパネル展示をしました。3日間の来場者は約250人でした。展示のメインパネルは、3・11後、毎週金曜日に国会前で脱原発の行動を続けている東京の若者グループが作ったリーフレットを使いました。その他に、サヨ原が行った「美浜原発から飛ばした風船の結果図」、「福井の原発立地の活断層図」、「使用済み核燃料問題」、「チェルノブイリと福島の子」も達に出ている被害などのパネルを加えました。「福井での自然エネルギーの取り組み」も幾つか紹介しました。

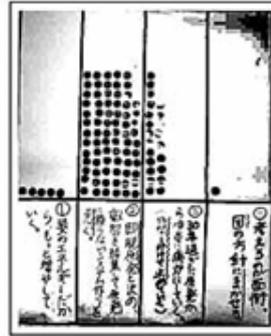
パネル以外では、絵本の紹介、自転車発電、ペットボトルの水車ミニ発電、パソコンとTVを使った3・11をはさんでの地震発生動画や、若いお母さんのユニークな脱原発ソング等も流しました。さらに、ゆるキャラの「原



ゼロノミクマだよ

も流しました。さらに、ゆるキャラの「原発ゼロノミクマ」くんも東京から来て参加してくれました。緑色のゼロノミクマくんは、お子さんと女子高生に大人気でした。ミクマくんを見かけると、速く

からでも手を振って下さったり、笑顔になるのが良く分かりました。チラシの受け取りも良く、ゆるキャラの力の大きさを実感しました。



「福井(日本)の原発をあなたはどのように思いますか?」というアンケートには、103名が回答。結果は①(原発をもっと増やす)が5名/

5%、②(脱原発と決めて原発に頼らないシステム作りを急ぐ)が75名/73%、③(古い原発から時間をかけてゆつくり止めて行く)が22名/21%、④(面倒だから国の方針にまかせる)が1名/1%でした。福井の人達も、原発に頼らないエネルギー社会を望んでいることが分かりました。

かつて、オイルショックの後、各国で原発導入が進みましたが、デンマークでは、国民レベルで討論を尽くした結果、原発に頼らない社会を選択しました。そして今や、デンマークは風力発電やバイオマス発電などの自然エネルギーが画期的に発展した国になりました。それに対し、日本のエネルギー政策は、反対意見を札束でねじふせる形で原発が推進されてきました。でも、3・11の原発震災を体験して多くの日本国民が原発の危険に目覚め、エネルギー政策の欺瞞にも気づいてきました。原発に頼らなくてもよい未来があることを知らせて行かなければと、改めて思いました。今が本当に成熟した民主主義の日本にできるかどうかの瀬戸際の時だと思えます。それには、ひとり一人のもう一步の勇気と行動が必要です。最後に展示会にご協力頂いた方々に御礼を申し

上げます。

◆パネル展での出来事

酒井照子



それは、パネル展2日目の帰り際のことでした。私は、すべての来場者の方にお渡ししている「NO NUKES」のチラシを、熱心にパネルを見てくださっていたその方に感謝の意をこめて差し出しました。するとその方は、軽くチラシを押しもどしながら「知っていますから」と、「県庁前でいつも立っている

られますよね」と言われたのです。思いもしない告白に私は、「あー」と一気に胸が熱くなりました。

私は半分も参加していないのだけれど、雨の日、嵐の日、嵐の日、雪の日、そして日照りの夏も「西川やめろ」と怒りの声をあげ続けているWさん、無心に脱原発の祈りを込めて太鼓を叩くIさんたち太鼓隊、ただ立ち尽くすしか無かった私。そんな毎週の金曜をその方は知っていてくださった。一人でも続けると始めたWさんは、まるで素知らぬ顔で通り過ぎて行く県庁から出てくる人々や、帰りを急ぐ人々の中で、県民の安全を考えようとしなない不実な知事を怒り続け、私たちは立ち尽くし、そして一年が過ぎました。

福井では、脱原発を表に出せない事情があるのは



承知しているけれど、毎回感じる無念さを、私は思わずその方に吐露してしまいました。するとその方は、「一緒に立てない非を詫びられ、100人はついていいますから」と、二人の脱原発の人の周りには100人は付いているからと言ってくれたのです。

朝から夜まで3日間、アオッサで過ごした私。オープンなアオッサでは、老若男女、実にいろんな人が集い、そして通り過ぎていきます。パネルをチラッと眺める人、無視する人、熱心に読んでくれる人、前述のようにエールを送ってくれる人、そして議論を挑んでくる人。

今回、オープンな場所で脱原発を高く掲げ、堂々と開催したことは、金曜行動県庁前集会同じく、脱原発活動の『見える化』に意義あったと自負しています。

どんな活動を『見える化』して、飛び交う意見を緩やかに繋いでいく、それが当ネットワークの役目でしょうか。そう有りたいたいものです。

◆孫が教える脱原発

石森修一郎



昨年の旧盆は、お腹の中で太鼓の音に反応していた孫が、元旦に誕生して早や7カ月、ハイハイからつかまり立ちを試み始めるなんて、その余りの成長ぶりに、感動の連続。幸せなお爺ちゃんを演じてます。昨秋からの滋賀県庁前抗議行動も上牧行動も、孫が安心して、息子嫁の実家がある大津市で誕生できるように念じ、嘉田由紀子知事と八木関西電力社長に直訴して大飯原発を止めて貰おうと思ったから

でした。今住んでいる東京に福島原発の影響があれば避難する大切な拠点を守らねばなりません。個人的動機と仰られてもその通りなので致し方ありません(悪しからず)。

ああそれなのに、老骨鞭打つても、大飯原発は止められない。現実には、ただじっと手をみるしかないのでしょうか? いやいや孫の世代に、豊かな自然をそのまま遺す責任があります。まずできる事から始めなければなりません。

命の行進の一行を自宅にお泊りして、反省したことは、いかに電気の恩恵にどっぷり浸かっていたか、思い知りました。基本的に電気を使わない生活を学びました。照明もテレビもない生活を想像できますか? やって見て快適なのです。戦後の耐久生活の再来、又楽しからずや! 決してやせ我慢ではありません。スマートフォンから流れるラジラジルのNHK(公正公平?) 眉に唾つけて聴けば良いのニュースで十分です。

うちの嫁が物質文明にどっぷり浸かっている、人様に意見できないのが苦しいのですが、まず脚下照顧、孫の力を借りて、再教育しますね。それでは、持続可能な地球環境とともに真剣に考えてひたすら祈り、核廃絶、反原発脱原発に繋がります。

◆福井県庁前金曜アクションを一年続けて

若泉 政人

昨年7月27日から、「反原発福井コラボレーション」という名前で、福井県庁前で「再稼働反対!金曜デモ」を始めました。午後4時からJA前の歩道でマイクアピールをし、午後5時半からは県庁周りをデモ行進するというスタイルを、雨や雪の日も休まず一年間毎週続けています。これも、原発を止めたい一心

で参加してくれている、仲間のおかげだと思っております。ありがとうございます。

当初、右翼の車が来たりもしましたが、私たちが10数人という少数ながら、見える形で「再稼働反対」西川知事は辞める」の声を上げ続けることで、建物の中にいる方(織協ビルの中にもいる方)でも、シヨプレヒコールを聞いて金曜日を実感する人もいる、と伝え聞きました)や、学生など認知してくれ、手を振ってくれたりするようになりました。継続していくことで、周囲が少しずつ変化していく、ということを感じたみんなが感じていると思います。

9月15日には、大飯原発4号機も定期検査に入り、日本中の原発が再び停止することになります。私たちのアクションは、この定期検査まで、と当初設定して始めました。しかし、継続することの必要性を考え、一旦仕切りなおしをして、より効果的な抗議を模索したいと考えています。

また、昨年からは、福井県に対して防災や文書記録についてなど公開質問状を提出し、回答を得る活動もしています(動画でも記録していますので、サヨ原のホームページからアクセスしてご覧ください)。

これからも、この抗議を仲間とともに継続して行きたいと思えます。ぜひ、皆さんもお時間のあるとき、ぜひご参加ください。



《会費納入のお願い》

サヨナラ原発福井ネットワークの会計年度は、1月～12月です。本年平成25年の会費が未納の方には振込用紙が入っています。早目の振り込みをお願いします。

会費は1000円です。もしよろしければカンパもお願いします。

【加入者名】

サヨナラ原発福井ネットワーク

【ゆうちよ振込口座番号】

00780-9-40314

【他金融機関からの振り込み口座番号】

〇七九(ゼロナナキユウ)店

(079)当座0040314

memo

当ネットワークの運営会議は、毎月第3木曜日午後7時から開催します。会員はどなたでも参加できます。次回は9月19日。場所は調整中。お問合せください。

福井での脱原発の主な活動の一覧(サヨ原を中心に※2013年分8月末まで)

<p>◎小出裕章さん講演会「未来は創れる!今できることを」(主催:ピースアクション実行委員会) 1月13日(日)敦賀市きらめきみなと館</p>
<p>◎「チェルノブイリ・フクシマを語り合う」(主催:当ネット) 2月19日(火)午後7時～ アイアイ鯖江 長らくチェルノブイリ支援に携わっておられる振津かつみさんと、双葉町原発反対同盟で活動されてきた佐藤龍彦さんのお話</p>
<p>◎「3.11メモリアルアクション ～ 原発のない新しい福井へ」(主催:さよなら原発福井県集会2013実行委員会) 3月10日(日)午後1時～ フェニックス・プラザ 第一部は音楽、第二部はリレートーク。集会のあと、原発の廃炉を求め市内をデモ行進</p>
<p>◎「原子力発電所の真実を語る」後藤政志講演会(主催:福井から原発を止める裁判の会) 3月30日(土)福井市東別院講堂 動画:http://youtu.be/7DgSaLgd1rc</p>
<p>◎「原発と放射線被害の長期的影響」(主催:当ネット) 4月28日(日) 午後1時30分～ ゆーアイ福井 映像ホール 講師/振津かつみ医師:低線量被曝の遺伝的影響の研究者、「核のない未来賞」受賞 スチーブ・ウィング博士:米国核施設労働者の被曝と悪性腫瘍の疫学研究</p>
<p>◎福井県生活学習館の友愛塾講座が県の命令で中止 5月15日(水)(当会会員が講師の講座。当会会員がゲスト講師の回を前に中止。各紙で報道) 友愛塾講座「ボランティア活動から得たもの(4回企画)」が、5月11日の第一回が終わった後、5月15日に突然、県から中止を申し渡された。県は最初の企画と異なる上、県民が講師ととなるべきところ、外部講師を呼んだことが理由とのこと。しかし、講師が直前に話し合いをし、学習館側は一旦了承していた。第一回目の講座の後も、次回修正することで合意していた。</p>
<p>◎小出裕章さん講演会『今考えよう!!未来のエネルギー ～美しいふるさとを子どもたちへ』 5月18日(土)越前市文化センター(主催:「小出裕章さんとエネルギーを考える会」)</p>
<p>◎福井県原子力防災訓練に対する抗議アピール(主催:ボランティア・セーフティネット蜘蛛の網) 6月16日(日)美浜原発3号機の過酷事故を想定した、原発から5キロ圏内の県初の避難訓練。乳幼児などの避難は想定されていないなど、県の防災計画の不備を船での避難を提案する形でアピール。越前町から「命のレスキュー」と横断幕を掲げた漁船が丹生の港に入り、訓練を見守った。当ネット会員ほか参加。</p>
<p>◎「対話集会:原子力文化振興財団の派遣講師と市民が原発問題を双方向で対話する集い」 6月30日(日)午後1時～ 越前市福祉健康センター(主催:エネルギー原発問題について双方向で対話をすすめる越前市民の会) テーマ/1:新規制基準で原発は再稼働できるのか 40分、質疑40分/2:敦賀原発の廃炉が決まった後の使用済み核燃料の処分 40分、質疑40分</p>
<p>◎高浜原発・MOX燃料搬入に対する抗議行動(主催:原子力発電に反対する福井県民会議) 6月27日(木)午前7時～ 高浜町音海地区防波堤横広場 輸送・搬入に対する抗議行動、高浜原発に申し入れ(当ネットも連名で抗議文提出)</p>
<p>◎若狭ゆずり木平和祭(主催:若狭ゆずり木平和祭実行委員会) 6月29日(土)午前10時～午後9時 小浜・明通寺にて音楽ライブ、講演、映画上映など全国から参加のフェスタ</p>
<p>◎「福井から未来へ!原発のない世界を!6/29-30全国集会」(呼びかけ:STOP☆大飯原発再稼働現地アクション) 6月30日(日)※鎌田慧さんの講演会、大飯原発までデモ行進、申し入れ</p>
<p>◎パネル展「いのちと自然とエネルギー」(主催:当ネット) 7月3日(水)～5日(金)アオッサ1階アトリウム アオッサの一階アトリウムで行われたパネル展示は 250名の来場者を迎え盛況におわかりました。</p>
<p>◎講演会「元東電社員が語る福島原発と現地の実態～吉川彰浩講演会～」(主催:当ネット) 7月14日(日)午後1時～4時 福井西別院小ホール 参加者40名</p>
<p>◎文書規定と県の意思決定や検証に関する公開質問状への回答、2011年 福井県と原子力安全委員会の打ち合わせ等防災に関する公開質問状への回答 ※県幹部と省庁のやり取りの記録が一切ない問題ほか 7月25日(木)午前10時半～(反原発福井コラボレーション) 動画:http://youtu.be/gOrtBHjWJo4(文書規定)、http://youtu.be/UPNe6r19Vd8(防災)</p>
<p>◎敦賀原発断層問題で福井県知事に申し入れ ※活断層であっても工学的な判断を、と県側が発言! 7月25日(木)午後1時～(原子力発電に反対する福井県民会議、若狭連帯行動ネットワーク、サヨナラ原発福井ネットワーク) 動画:http://youtu.be/sI-xyrNqU3g</p>